

令和元年9月5日  
愛媛大学

## 膵臓がんの早期診断に繋がる研究成果

愛媛大学医学部附属病院地域医療支援センターの熊木天児(くまぎ てる)准教授と第三内科(診療科長:日浅陽一教授)らの研究グループは、この度、**膵臓がんの早期診断に繋がる研究成果**を発表しました。

当院の第三内科および関連病院による「愛媛膵臓胆道疾患研究グループ(代表:熊木天児)」では、早期診断の難しい膵臓がんの臨床研究を行っています。

今回の研究成果では、肝臓病患者が定期的に受ける腹部画像検査によって、通常よりも早い段階で膵臓がんと診断されているケースがあることを明らかにしました。これは、**主たる目的とは異なる検査において、膵臓の間接所見(特に主膵管拡張)が指摘された場合でも、専門の医療機関で精密検査を受けることで膵臓がんの早期診断に繋がることを期待できると考えられます。**

今後は、この結果をもとに、膵臓がんとは関係の薄い症状で受けた検査や人間ドックなどによって、**偶然、膵臓に異常が見つかった場合は、たとえ症状が無くても専門医のもとで精密検査を受けることを推奨する必要がある**と言えます。

なお、本研究成果は、世界的に評価の高い病院が発刊する英文雑誌「Mayo Clinic Proceedings」にオープンアクセスとしてオンライン掲載されました。

つきましては、是非、取材くださいますようお願いいたします。

### 記

掲載誌: Mayo Clinic Proceedings (<https://doi.org/10.1016/j.mayocp.2018.12.034>)

YouTube(英語によるビデオクリップ): <https://youtu.be/lhUtrr1TsV4>

題名: Early detection of pancreatic cancer in patients with chronic liver disease under hepatocellular carcinoma surveillance

(和文)

著者: Kumagi T, Terao T, Yokota T, Azemoto N, Kuroda T, Imamura Y, Uesugi K, Kisaka Y, Tanaka Y, Shibata N, Koizumi M, Ohno Y, Yukimoto A, Tange K, Nishiyama M, Kanemitsu K, Miyake T, Miyata H, Ishii H, Hiasa Y, Ehime Pancreato-Cholangiology (EPOCH) Study Group.

本件に関する問い合わせ先

愛媛大学医学部附属病院地域医療支援センター  
准教授 熊木天児(くまぎ てる)

TEL: 089-960-5990

※送付資料 2枚(本紙を含む)

## ◎研究の背景と経緯

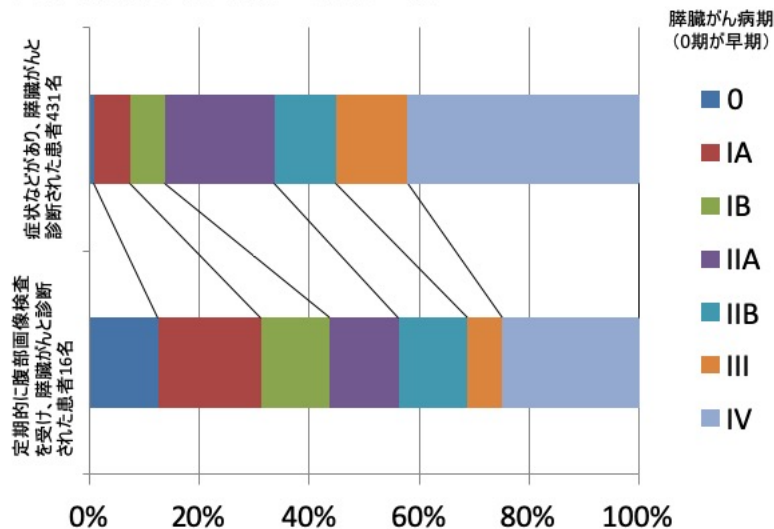
**膵臓がんは、がんの中でも最も予後不良である**ことが知られている。しかしながら、腹部超音波検査や腹部 CT 検査で写る、直接所見である腫瘍(いわゆる「しこり」)ではなく、**腫瘍が写る前の間接所見(膵管拡張や嚢胞性病変)が膵臓がんの早期診断に繋がる**ことが報告されている。一方、慢性的な肝臓病を持つ患者では、肝臓がんを発症しやすいため、定期的に腹部画像検査を受けることがガイドラインで強く勧められている。

以上より、そのような患者が膵臓がんを発症した場合、直接所見である「しこり」が写る前に偶然にも間接所見を指摘され、膵臓がんの早期診断に繋がっている可能性がある。

## ◎研究の内容

過去に愛媛膵胆道疾患研究グループの施設で膵臓がんと診断された 447 名を対象に診断の契機を調査すると、慢性的な肝臓病を持ち(今回の研究では B 型および C 型肝炎ウイルスに限定)、定期的に腹部画像検査を受けていた患者 16 名は、腹痛など症状があるために病院を受診した患者 431 名より明らかに早い段階で膵臓がんと診断されていた。しかしながら、定期的に画像検査を受けていても進行した段階で診断される患者がいるのも事実であり、膵臓がんの診断にはまだまだ多くの課題が残されている。

図: 診断契機別に見た膵臓がん病期の比較



## ◎今後の展開

今回の研究より、以下の 2 点に注意する必要があることが明らかとなった。はじめに、どんな腹部の画像検査においても、医療従事者は**膵臓の間接所見(特に主膵管拡張)の有無について注意深く観察し、その重要性を認識**する必要がある。そして、**偶然にも膵臓の間接所見を指摘された場合には、症状がなくても超音波内視鏡検査や膵管造影検査を行っている専門の医療機関で精密検査を受けるべき**である。このことにより、**膵臓がんの早期診断に繋がる**ことが期待される。

なお、今回の研究は、膵臓がん検診を勧めている研究ではないこと、慢性的な肝臓病を持つ患者が膵臓がんになりやすいとした研究ではないことをお断りしておきたい。